

解明の方向を考えてゆきたい。

## 新しい農村

### — 山口県秋芳町中辺部落の事例 —

山口女子短大 林 雅 孝

#### 目 次

- 一、序
  - 二、部落の概要
  - 三、住民意識
  - 四、新しい傾向とその意義付け
- 附章 観光の社会学への一つの試み

海に面しない美禰郡秋芳町のカルスト台地秋芳台と秋芳洞は、世界的規模の自然景観であり、かつ景勝であるが、それへの観光の流行が、この地域に新しい社会変動 — 特殊富裕地域の発生とその成長 — を生ぜしめた。その度合は、産業開発による「孤高的」富裕町村である和木村や南陽町にも対応している。

もちろん、その変化は、町内ではとりわけ台地や洞の近くに育成された商業地帯や町中央をふくむその近接部落において

ちじるしい。特殊な自然景観に立脚した公園経営主義的傾向ないしは商業化の進行ともいえようか。未来社会のテーマである「農村公園化」の新しい特殊型がここにはある、ともいえるであろう。

全体として、かゝる特色を持つ当町の中で今回採った中辺部落は、町の中央や洞、台地を離れ、西北部奥深くにあり、この様な変化の波は直接にはおよばない。しかしながら、今回のテーマである観光地帯の周辺部落へのその浸透過程においては興味ある現象もみられる。

とりわけ、本論においては、(1)台地や洞の観光の流行はどう影響しているか。(2)なかならず、産業開発と趣を異にする公園経営的商業主義化の隆盛 — 観光開発 — は、農村の近代化、農業の商品化経済の進行過程で、特殊加速的プラスの要因となつてゐるか。特殊(秋芳型)価値体系の発生はみられないか。(3)裏返しの観察でもあるが、農業構造改善事業 — 農村の近代化の進行状況はどうか。特殊な事実はみられないか — など観光開発地域の一周辺村落への波及過程の解明が、検討されるべき論点である。

なお、本論の主旨は、事例報告であるが、最終的には「観光の社会学」への一つの準備過程としての意義をも内包している。